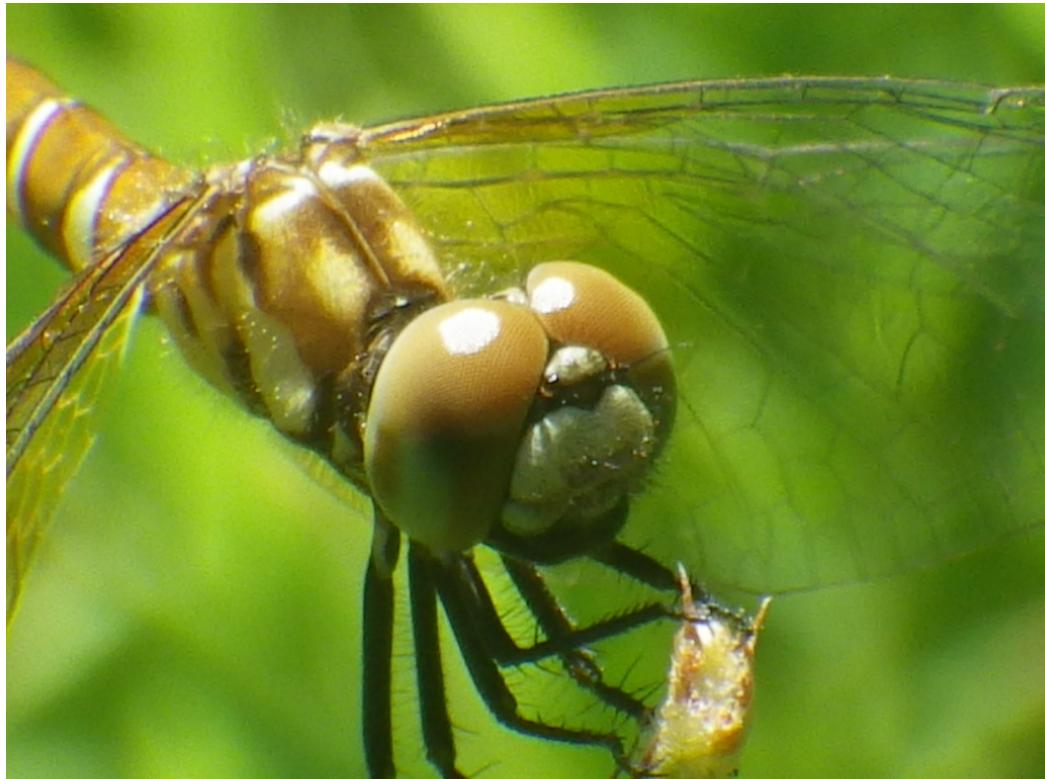


# 協議会ニュース

No. 177

2023.3



## Contents

- |                          |             |
|--------------------------|-------------|
| 1 表紙                     |             |
| 2 通常総会・講演会               | 副会長 三田 孝    |
| 3 東三河支部 40周年記念行事の報告      | 東三河支部 星野 芳彦 |
| 4 知多支部 40周年記念行事の報告       | 知多支部 榊原 靖   |
| 5 あいちの自然観察会報告(11/19)     | 尾張支部 斎竹 善行  |
| 6 (仮)オセアニア一周の旅の報告(シリーズ1) | 東三河支部 中西 正  |
| 7 (仮)なごや東山の湿地(シリーズ11)    | 名古屋支部 滝川 正子 |
| 8 支部自然自慢                 | 名古屋支部 滝田 久憲 |
| 9 支部総会報告                 | 尾張支部 内海 勇夫  |
| 9 保険担当から                 | 名古屋支部 新山 雅一 |
| 10 ご案内/編集後記              | 編集担当 三田 孝   |

今号の表紙

ハツチョウトンボのメス (東谷山湿地群保全の会) 福田 利夫  
生き物アップの写真募集中!

# 令和5年度 通常総会・講演会

愛知県自然観察指導員連絡協議会の総会は3年ぶりに通常総会として下記の通り開催いたします。現在、事務局長の石原さんが病気療養中です。理事会が事務局機能を分担して対応に当たっていますが、令和5年度の活動を縮小する案が提案されています。今後の協議会の方向性にも関わる内容を含みます。是非、皆様のご意見をいただきたいと思います。

日時 令和5年3月21日(火・春分の日) 13:30~

場所 吹上ホール (名古屋中小企業振興会館) 4階第2会議室 tel.052-735-2111

名古屋市千種区吹上二丁目6番3号

地下鉄桜通線「名古屋駅」から徳重行き、「吹上駅」下車 5番出口より徒歩5分

= 次第 =

13:00 受付開始

13:30 令和5年度通常総会開会宣言

- 1) 参加者数の報告
- 2) 令和5年度の協議会各理事の紹介
- 3) 会長挨拶
- 4) 総会議長、書記の選出
- 5) 総会議事
  - ① 第1号議案 令和4年度事業報告
  - ② 第2号議案 令和4年度決算報告・監査報告
  - ③ 第3号議案 新役員承認
  - ④ 第4号議案 令和5年度事業計画(案)
  - ⑤ 第5号議案 令和5年度予算(案)
  - ⑥ 質疑応答・その他

14:30 総会終了宣言

~~~~~休憩~~~~~

14:40~16:00 講演会

講師：松岡 敬二 理学博士、前豊橋市自然史博物館館長

演題：「研究の歩みと私の博物誌」

広島県生まれ。名古屋大学で理学博士号を取得し、学芸員として豊橋市自然史博物館開館時より活動し、2010年から2020年まで館長を務める。現在、同館ミュージアムアドバイザー、愛知大学郷土研究所研究員、岐阜大学など非常勤講師。東三河自然観察会、当協議会会員でもある。共著書「琵琶湖の自然史」(八坂書房)、「恐竜と絶滅した生き物」(世界文化社)、「博物館資料論」(雄山閣)他、論文等550篇。

16:10~16:20 意見交換会

16:20 閉会・後片付け



## 東三河支部 創立 40 周年記念行事「明日に伝えよう、すばらしき東三河の自然！」

東三河支部( NPO 法人 東三河自然観察会 ) 星野 芳彦

私たち、東三河支部(現 NPO 法人東三河自然観察会)は、2022年に創立40周年(NPO 法人化20周年)を迎えました。これまで学識経験者を講師に迎えた講演会やシンポジウム、映画会、屋外ライブなどの企画を記念行事として実施してきましたが、今回はできるだけ多くのなかまが行事に関わることと、できるだけ若手が活躍できる場を設けて今後の活動へつながることを目指して様々な企画を立案しました。

まず、スローガンに「明日に伝えよう、すばらしき東三河の自然！」を掲げました。ご承知のように東三河は、自然環境や生物の多様性は県内随一といえます。そんな自然観察のフィールドを再確認し、未来に伝えたいという私たちの願いをスローガンに込め、これから活動の中心に据えたいと思います。

当支部主催の、豊橋公園定例自然観察会(今年度は3, 5, 7, 11月第2日曜実施)や東三河地域で会場を変えて行う地域自然観察会も、今年度は、前述のスローガンを意識して企画しました。中でも、9月11日(日)には、茶臼山高原で昼食持参の1日行程で実施したところ、遠方にも関わらず、遠くは神奈川県からの参加者もあり、盛況のうちに終えることができました。また、11月19日(土)での、財賀寺でのムササビ観察会では、何と89名の一般参加者が集まり、観察会での動員数記録を樹立しました。市民の方々が、身近な自然に対して、これまで以上に高い関心を持っていることを再確認させられ、からの自然観察会のあり方を考えるよいきっかけになったと思います。

自然観察会以外には、次の2つの大きなイベントを催しました。

① 東三河の自然展

② 創立40周年記念講演会

まず、東三河の自然展は、2022年9月21日～25日にのんほいパーク(豊橋総合動植物公園)内のイベントのへやで行われました。

ここでは、東三河で見られる多様な動植物と絶滅が危惧される希少種や生態系を脅かす外来種を写真と大型液晶画面でのスライドショーで来場者に紹介しました。会員の作成した植物標本や海岸の漂着物、実物のムササビの巣、バードカービング作品も会場の一角に展示され、現物を前にした解説会も随時行われました。

また、会場内では、天然素材のクラフト体験もでき、手作りのセミのオモチャを手にして、子どもたちは勿論、大人にも大人気でした。



東三河の自然展 会場内スナップ

展示室の外では、会員による自然についての紙芝居の公演も連日行われ、5日間でのべ約1200名の来場がありました。会員による作品は、今後様々な形で活用しようと計画中です。

もう一つは、1月14日に穂の国とよはし芸術劇場 PLAT で催された、記念講演会です。基調講演には、自然と人をつなぐ写真家の渡邊智之氏を講師に、ハエトリグモからホンドギツネまで身近な生きものが紹介されました。実践発表には、当会の森拓矢会員がムササビを、杉浦公亮会員がカエルを大型画面一杯の映像を前に夫々東三河の自然のすばらしさを熱く語り、若さに溢れた元気の出る講演会でした。



講演中の渡邊氏(画面左上)と会場の様子

# 知多自然観察会発足 40 周年記念イベントのあらまし

知多支部 榊原 靖

知多自然観察会（愛知県自然観察指導員連絡協議会知多支部）は、1982年5月に知多地方自然観察研究会という名称で会員数8名で発足しました。従って2022年は発足から40周年という節目の年に当たります。そこでささやかながら記念となるイベントを催そうということになり、2022（令和4）年11月19日に講演会と展示会を開催しました。会場は東海市立文化センター第2講義室（展示会）と第3講義室（講演会）でした。

講演に先立って代表挨拶と協議会会長の祝辞からなる簡単なセレモニーが行われました。代表挨拶では知多自然観察会の来歴と現在の様子を簡単に紹介しました。会長の浅井聰司さんからは、故人となられた会発足当時のメンバーとの交流の思い出が語られ、40年の長きにわたって続いてきた会の礎を築かれた功績を改めて思い起こすことができました。

講演会の講師には日本福祉大学副学長の福田秀志教授をお招きました。講演タイトルは「知多半島の自然の魅力と生態系保全活動～知多半島の象徴種キツネの生息状況と生態を中心～」

まさに観察会会員にとって興味をそそられるお話でした。質疑で交わされたキツネの糞は臭いということが強く印象に残りました。



講演会冒頭の様子

展示会の内容は

知多自然観察会の歩み；年報バックナンバー  
知多半島の自然の魅力；

- ・三河湾のウミウシ類、クサフグの産卵、ウミホタル（写真展示）
- ・天然木の透かし彫り
- ・竹工作
- ・知多の淡水エビ（生体・写真展示）
- ・クルミの実および細工物
- ・木の実の細工物
- ・貝殻、ドングリ
- ・オナガミズアオの成長記録（写真）、昆虫のイラスト画集
- ・キツネ（写真）
- ・トビハゼ、ヘイケボタル（生体展示）

などでした。

ほかに「自由にお持ちください」と称して、不要になった本のお持ち帰りコーナー（大盛況で大部分の本が新たな読者の元に旅立ちました。）が設けられました。



展示会の様子



展示の一部

## 木曽川沿いを歩いて 冬鳥を観よう！

### ＜あいちの自然観察会の報告＞

尾張支部 齋竹 善行

○日時 2022/11/27(日)9:30~12:00(晴)

○場所 木曽川犬山緑地～扶桑緑地

○参加者 一般:12名

指導員:尾張 6名、名古屋 1名

新型コロナウィルスの感染拡大のため 2年間見合わせていた「あいちの自然観察会」を11月27日に犬山から扶桑にかけての木曽川沿いの緑地で開催しました。

開催決定が遅くなったため協議会ニュースやチラシなどでの案内ができず、ネットと口コミでの広報となり、参加者がどれ程になるか心配でしたが、19名が集まりました。

松尾会長のあいさつの後、集合場所の犬山緑地から扶桑緑地方面に向かいました。観察コースは川沿いの遊歩道ですが、サイクリングロードを兼ねているため自転車やジョギングをする人たちに気を付けながら回りました。

好天に恵まれ、上空をオオタカが舞い、川の中州の石の上に止まっていたハヤブサが上流に向かって飛ぶコガモの群を襲うところが見られるなど、参加者は十分楽しかったものと思われます。川面にはキンクロハジロ、カワアイサ、カンムリカツブリなどが浮かび、浅瀬ではダイサギの群やカワウの姿が見られました。ただ、カモ類は例年見られるオカヨシガモ、ヨシガモ、ミコアイサなどの姿がなく、種類も個体数も少なめだったことが気になりました。毎年1月に行われているガンカモ調査の結果を見ると、犬山付近の木曽川では年によって差はあるものの長期的には減少傾向が続いているように見受けられます。(グラフ参照)

また一部の冬鳥の飛来が遅れているのか、ジョウビタキは出たものの、ツグミは残念ながら姿も鳴き声も確認できませんでした。

今回の観察会のテーマは野鳥でしたが、せっかく木曽川に来たので、治水のために使われた猿尾(岸から川の中に伸びた堤)や聖牛(川底

に設置する伝統的な治水装置)、砂地に栽培される特産の守口大根の畑も見てもらいました。

今回のような観察会は、場所、参加メンバーとも定例観察会とは異なり、新鮮な感じがしているんですね。

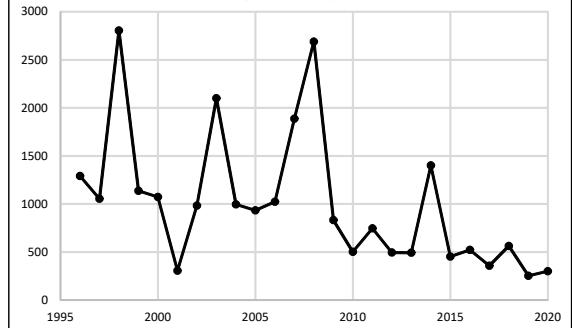


(遊歩道から木曽川の野鳥を観察)



キンクロハジロ

犬山付近の木曽川に飛来したカモ類の数  
(経年変化)



(グラフ：ガンカモ調査の結果)

# ピースボートで見た「山火事と自然」

東三河支部 中西 正

## 1. オーストラリアの山火事

2019年から2020年にかけて、ピースボートでオセアニアを回った。メラネシア、ミクロネシアとオーストラリアの自然は興味が尽きなかつた。ここではオーストラリアにおける火と自然を見ていきたい。

覚えているだろうか、オーストラリアには2019年から2020年にかけて大規模な山火事が起きていた。多く生えているユーカリの木には油分が多いために燃えやすいという。また、気候的に乾燥地であり、山火事は起きやすく広がりやすい。映像で見ると圧倒的な火の強さを見せている。その煙は南米まで届いたほどだといわれる。

シドニーではボンダイビーチと呼ばれる大きく美しいビーチに行った。アボリジニーの人びとの言葉で「岩に碎ける波」という意味で、砂浜の両端は岩で波が打ち寄せる場所だった。ビーチは幅も広く、やや黄色がかったさらさらの砂だった。打ち寄せる波は泳ぐのに厳しいほどでなく、サーフィンにも丁度よさそうだ。岸辺では水に入って波と遊んでいる人がいる。砂浜には太陽を浴びる人がいる。前日までは、山火事の煙で空は煙っており、例年と比べ人出は少ないという。

アデレード近郊のハーハンドルフ、ここはドイツ人の入植地で、ニレ、アメリカフウ、プラタナスなどの街路樹が大木に育ち、自然豊かな地と感じられる。ここではワインセラーに行き、テイスティングを楽しんだ。聞いていたのは10豪ドルでテイスティングをし、ワインを買えばそれは返却されるということだった。しかし、現在起きている山火事に募金するために返却してないという。それも結構ではないかと思った。山火事に対して寄付したことになる。

山火事が世界的規模で各地で起きている。カリ

フォルニアでは、大面積が消失し18年には80人以上の人のが犠牲になっている（'19.10.23）。インドネシアでは大規模な野焼きや森林火災が起きている。引き金はアブラヤシ農園の開拓に野焼きを行い、その時に泥炭地にも火がつき地中が燃え始め、消せなくなる。自然地域の火災がシンガポールやクアラルンプールなどの大都会にも影響している（'19.9.23）。ブラジルの熱帯雨林が危ないという。開発によって、熱帯雨林中に太い道路が通り、道路の脇の森林が焼かれ、放牧地や畑になる。これらの行為は違法なことというが、森林が守られることはない（'19.9.20）。

私がオーストラリアにいる時も森林はまだ燃えていた。'19.12の記事には200万ha延焼とあったが、その後も燃え続け、1070万ha以上になっている。火災がこれだけの面積だと野生生物にも大きな影響を及ぼし、カンガルー島のコアラは6万頭のうち9割以上が犠牲になったという。オーストラリアで乗った飛行機では、成層圏と対流圏の境がもやもやしていた。シドニーに近づいたとき、地上に赤い線が見えたが、山林火災の現場だった。この火災の消火のために世界中から人が駆け付け、日本からも自衛隊が派遣されている。しかし、人の力では鎮火に至らなかった。その後大雨が降り、それによって鎮まった。



パース近郊の山火事

# なごや東山の湿地(湿地シリーズ 11)

名古屋支部 滝川 正子

## オワリサンショウウオが新種だって？！

両生類オワリサンショウウオとの出会いは、緑豊かな東山の森を求めて転居した 1997 年の春です。特徴から勝手に「トウキョウサンショウウオ」としました。当時を知る人の話では、かつての東山の森の全域は湧水が豊富で 1950 年代まで周辺には水田の名残りもあり、ホタルが飛び交い、カエルの歌、家に入るにはヘビを避け、トンボの乱舞をかき分けたそうです。「トウキョウサンショウウオ」も身近な生き物で、春先には卵嚢を石ころのように蹴って遊んでいたそうです。さて、名称は「トウキョウサンショウウオ」ではなく、2018 年頃には「カスミサンショウウオ」となり、その後、東山動物園の F さんが遺伝子を調べたところ、昨年 2022 年にオワリサンショウウオとして、新種登録されました。体長は 10 センチほどで、黒褐色で森や湿地帯に生息しています。そして、なごや生物多様性保全協議会にも両生類部会ができ、私もその一員として、春先には産卵域の水辺の整備や調査活動などをやっています。

## なごやの貴重な自然「なごや東山の森」

さて、1981 年から始まった平和公園自然観察会は 1999 年 3 月に「名古屋新世紀計画 2010」に市民と行政の協働による森づくりを提案しました。これを受けて名古屋市は 2003 年に「なごや東山の森づくり基本構想」を策定し、市民・企業・行政が協働して「人と自然の生命（いのち）輝く東山の森づくり」を目指すとの理念の下に「なごや東山の森づくりの会」が発足し、本格的な森づくり活動がはじまりました。

時が経ち、なごや東山の森は散策や自然観察など多くの市民にとって身近に自然に触れ合える場となりました。しかし、現状は生物多様性の基盤となる水辺や湿地には土砂が流入し、乾燥化や森林化が進み、生き物を育む湿地環境の劣化・消失が危惧されています。

## 水辺・湿地再生へ森づくりガイドライン策定へ

そこで、天白渓「東山の森最大の湿地の再生」、大坪湿地「今も残る湿地の保全と段階的拡大」、平和公園南部のハンノキ湿地「水辺のある里山エリアの復活」として、3ヶ所の地下水位の動態調査、植生調査、埋土種子調査、地質等の調査・評価し、課題、対応策など明らかにするとともに、2022 年具体的な水辺・湿地保全再生ガイドライン作成プロジェクトを立上げました。

## 連携「なごや水辺・湿地センター養成講座」

つながるネットワーク「なごや環境大学」との連携です。「持続可能な地球社会」を支える大切な「人づくり・人の輪づくり」を進め、行動する市民として「共に育つ」ことを目的としています。市民/市民(NPO/NGO)・企業・教育機関・行政が立場や分野をこえて協働で運営し、知識や経験、問題意識を持ち寄って学びあうネットワークです。このなごや環境大学実行委員会事務局と共催で「なごや水辺・湿地センター養成講座」を 2022 年度にその基礎編を開催しています。以下は、その呼びかけ文です～森林に水辺・湿地があることで、湿った環境を好む動植物が生息し、独自の環境を作ります。水辺・湿地もなごやの森の豊かな生態系を支える基盤の一つとなっていますが、土砂の流入による乾燥化や森林化により、水辺・湿地の減少が危惧されています。東山の森をフィールドに水辺・湿地の実態を知り、湿地がある森林の保全の必要性や保全に向けた活動を考えるセンターになってみませんか。

第 1 回「東山の水辺・湿地の実態」(講師 富田啓介さん 愛知学院大学)、第 2 回「湿地の地下をみる」現地(講師 富田啓介さん 愛知学院大学)、第 3 回「地形・地質を知る」現地(講師 村松憲一さん なごやの大地を学ぶ会)、第 4 回「植生を知る」現地(講師 長谷川泰洋さん)。

## 支部自然自慢

名古屋支部 滝田 久憲

名古屋市の地形の特徴の一つがその東部に南北に延びる東部丘陵地があることです。その北端の少し東になる名古屋市守山区と瀬戸市の境界部分に東谷山があります。この東谷山は東側に広がる定光寺などを含む愛岐丘陵の西の端にあり、東部丘陵地が100m以下のいくつかのなだらかな丘で成り立っているのに対して、東谷山は198.3mの名古屋市の最高峰となっています。頂上にある西側の展望台からは、濃尾平野を流れる庄内川の蛇行や名古屋駅のツインタワーなどを望むことができます。一方、東側の展望台からは、瀬戸市街地や猿投山などを望むことができます。また、東谷山の頂上には尾張戸(おわりべ)神社があり、信仰の山として親しまれています。江戸時代、名古屋城の鬼門が東谷山に当たるため、尾張戸神社がその守護神になることから、尾張徳川家よりその庇護を受けていました。この東谷山の上部は美濃帯の中古生層が花崗岩類の貫入で熱変性したホルンフェルスで覆われています。その証拠に、散策路の途中で、貫入した花崗岩類の露頭を観察することができ、名古屋城の石垣に使うために石きりを行った場所も残っています。また、東谷山は湧き水が多く、南西部の麓付近には湿地群が形成され、シデコブシのような東海地方固有な生き物などの生息地となっています。この湿地群は愛知県自然環境保全地域にも指定され、市民による保全活動が行われています。そして、東谷山の湧き水の多くは庄内川に注ぎ込んでいます。この庄内川が最終的に辿り着くのが名古屋港で、そこに藤前干潟があります。

この藤前干潟は新田開発のための干拓事業で出来た岬の周りに、川から流れてきた砂などが貯まってできたものです。そこに

は、アナジャコやゴカイなどの底生動物が生息し、シギなどの渡り鳥が立ち寄る中継地となっています。かつて、この藤前干潟には、埋め立て処分場を造る計画が持ち上がりました。これに対して、「藤前干潟を守る会」などの市民による建設反対運動が起き、紆余曲折のあと、1999年に計画は中止となり、2002年にはラムサール条約にも登録されました。現在は、名古屋市野鳥観察館や稻永ビジターセンター、藤前活動センターなどを中心に、干潟の保全に向けた様々な活動が行われています。

東谷山に降った雨はその地下で浄化され、その一部は山麓の湿地群を経由して、庄内川と合流して、途中、人々に様々な恵みを与えるながら、名古屋港に辿り着きます。そして、藤前干潟では、底生の生き物などによって、水の汚れが浄化されています。東谷山と藤前干潟は庄内川でつながり、名古屋市の環境保全に大いに寄与していると言えます。



東谷山山頂からの眺望



干潮時の藤前干潟

## 支部総会報告

尾張支部 内海 勇夫

日時 令和5年 1月9日（月・祝日）

場所 こまき市民交流テラス

参加者 11名

尾張支部総会は、令和4年度の事業報告・決算報告及び監査、令和5年度の役員・事業計画案・予算案が承認決定されました。

### 尾張支部の今後の方針について

**会計の件**・・・会費ですが、下記通信の変更に伴い郵送をしない方向になりました。そのため1200円から1000円に変更しました。家族会員は300円のままでです。

**役員の件**・・・今回も役員の変更が難しい状態です。通信編集が齋竹さんに、通信の郵送はなしになりました。

**通信**・・・通信については、その内容が観察会報告ばかりでなく、最近観察した事柄や定例会以外の観察会などの投稿も載せていくたいと思います。よろしくお願ひします。

**機関誌の発行について**・・・今までメールと郵送でしたが、郵送は停止。郵送の方には、メールかコンビニでのマルチコピー機でプリント予約番号を入れ、印刷する方法になります。

尾張支部 令和5年度役員

会長 松尾 初

副会長 平井直人 事務局 内海勇夫

会計 霜 佳子 監査 木村慎一郎

通信編成 齋竹善行

HP管理 山田博一 HP補助 牧野紀子

総会終了後、尾張支部の山本さんが、中津川市坂下に素敵な里山ミュージアムを運営しています。12か月の紹介パネルを見せていただきました。

山の家みらい お山のジイジ

山本尚三 09022615448

## 保険対応で気になったこと

保険担当理事 新山 雅一

毎年のように保険対象事故が発生していますが、最近、受理にあたり気になることがありしたので報告させて頂きます。同じ地区の自然観察会で2年連続で子供が怪我をする事故が発生しました。1件目は目の怪我でしたが軽症で親から治療費が無料なので、保険を適用しなくてよいと話があり保険を適用しませんでした。2件目はハチに刺されましたが軽症で2回の通院のみでしたが、保険を適用しました。名古屋市での医療費は、18歳迄通院費と入院費は無料ですが、軽傷でも観察会で怪我をして通院した時は必ず保険を申請して下さい。目の場合は後遺症が発生する懸念があり一度保険の不適用を申請すると適用できなくなり、保険会社からも再三申請するように打診がありました。加入しているレクリエーション保険は、30万円未満の治療費は診断書が必要がなく余分な経費は発生しません。せっかく加入している保険を有効に活用して下さい。又、事故が発生した時は、所属の支部長に必ず連絡して支部内で事故事例を共有し同じ事故が二度と発生しないように注意喚起して下さい。理事会で事故の報告をすると支部長が事故事例を全く把握していない状況です。もう1点は、臨時の自然観察会開催の保険適用の件です。泊りでなければ保険担当理事に申請すれば保険が適用されますが、昨夏の自然観察会で保険対象者の連絡を事後報告した会員がいました。受理はしましたが開催日の遅くても前日迄には必ず連絡をお願いします。同時に臨時に開催する場合は支部長に連絡して報告するようにして下さい。事故は同じ観察会で2~3回、繰り返して発生することが多々あります。再度、下見で入念に危険予知を確認すること、事故発生時の緊急連絡先を周知しておいて下さい。保険制度の説明については【協議会ニュースの2020年12月発行166号の8ページ】に掲載されていますので再度確認をお願い致します。

## あいちの自然観察会

| 実施日      | 時間         | 実施場所 | テーマ        | 集合場所            | 担当    |
|----------|------------|------|------------|-----------------|-------|
| 5月7日(土)  | 9:30~12:00 | 蒲池海岸 | 砂浜の花と虫     | 蒲池漁港駐車場         | 知多支部  |
| 5月20日(土) | 9:30~12:00 | 東谷山  | 新緑の東谷山に登ろう | 東谷山フルーツパーク第一駐車場 | 名古屋支部 |

## 自然観察指導員講習会 共催 日本自然保護協会

日時 2023年8月19日(土)~8月20日(日)

場所 美浜少年自然の家 愛知県知多郡美浜町大字小野浦

指導員養成は各支部自然観察会の活動継続を維持する最重要課題です。詳細は今後決められますが、開催スタッフとしての協力や知人友人への紹介をお願いします。

## ピースボートでオセアニア一周

今号から元協議会会長・東三河支部会員の中西正さんの連載が始まりました。ピースボートで世界二周した後、今回はオセアニア一周。旅先で見たこと・聞いたこと・考えたことのレポートです。昨年8月に「ピースボートでオセアニア一周」と題した本を出版されています。ご希望の方は編集部三田([mita.takashi@nifty.com](mailto:mita.takashi@nifty.com))までお申し込みください。1800円+送料です。

### ＜編集後記＞

事務局長兼協議会ニュース編集長の石原さんが突然闘病生活に入り、協議会運営の屋台骨が揺らいでいます。急遽、三田が編集を請け負いましたが、MSWORDでの編集の技量が足りません。この非常事態に執筆陣の迅速な出稿という協力を得て何とか発行に漕ぎました。理事会の人員不足で担当の兼任が目立ちます。皆様の協力をお願いします。

### 編集スタッフ

石原則義 内海勇夫 岡田雅子 馬場隆之 平山希能

### 協議会ニュース編集部

三田 孝 (協議会副会長)

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail : [norimameobata@yahoo.co.jp](mailto:norimameobata@yahoo.co.jp) Web Page : <http://anoicm.sakura.ne.jp>

郵便振替口座 : 00820-9-6546 (名義 : 愛知県自然観察指導員連絡協議会)